



次の問いに答えよ。

- (1)  $|x^2 - x - 23|$  の値が, 3 を法として 2 に合同である正の整数  $x$  をすべて求めよ。
- (2)  $k$  個の連続した正の整数  $x_1, \dots, x_k$  に対して,

$$|x_j^2 - x_j - 23| \quad (1 \leq j \leq k)$$

の値がすべて素数になる  $k$  の最大値と, その  $k$  に対する連続した正の整数  $x_1, \dots, x_k$  をすべて求めよ。

ここで,  $k$  個の連続した整数とは,

$$x_1, x_1 + 1, x_1 + 2, \dots, x_1 + k - 1$$

となる列のことである。



- (1)  $f(x) = x^2 - x - 23$  とおく。以下, 合同式はすべて mod 3 とする。

$$|f(1)| = |1 - 1 - 23| = 23 \equiv 2, \quad |f(2)| = |4 - 2 - 23| = 21 \equiv 0$$

$$|f(3)| = |9 - 3 - 23| = 17 \equiv 2, \quad |f(4)| = |16 - 4 - 23| = 11 \equiv 2$$

$$|f(5)| = |25 - 5 - 23| = 3 \equiv 0, \quad |f(6)| = |36 - 6 - 23| = 7 \equiv 1$$

となる。

$x \geq 6$  のとき,  $f(x) = x(x-1) - 23 \geq f(6) > 0$  より  $|f(x)| = f(x)$  である。

・  $x \equiv 0$  のとき

$$f(x) \equiv 0 - 0 - 23 = -23 \equiv 1$$

・  $x \equiv 1$  のとき

$$f(x) \equiv 1 - 1 - 23 = -23 \equiv 1$$

・  $x \equiv 2$  のとき

$$f(x) \equiv 4 - 2 - 23 = -21 \equiv 0$$

であるから,  $|f(x)| \equiv 2$  となる正の整数  $x$  は 1, 3, 4

(2)  $x_1$  を正の整数として,

$k$  個の整数  $|f(x_1)|, |f(x_1+1)|, \dots, |f(x_1+k-1)|$  がすべて素数であるとする。

(1)より  $x \equiv 2$  かつ  $x \geq 6$  のとき,  $|f(x)|$  は  $f(6) = 7$  以上の 3 の倍数になるので, 素数ではない。

3 つの連続する整数  $x_1, x_1+1, x_1+2$  の中には 3 を法として 2 と合同になるものが存在するので,  $x_1 \geq 6$  のとき,  $k \leq 2$  である。

また,  $|f(1)|$  が素数で  $|f(2)|$  が素数でないから,  $x_1 = 1$  ならば  $k = 1$  である。

そして,  $|f(3)|, |f(4)|, |f(5)|, |f(6)|$  および  $|f(7)| = |49 - 7 - 23| = 19$  がすべて素数であることから

$k$  の最大値は 5 であり, このときの  $x_1, \dots, x_k$  は, 3, 4, 5, 6, 7 である。



複素数平面上の異なる 3 点  $A, B, C$  を複素数  $\alpha, \beta, \gamma$  で表す。ここで  $A, B, C$  は同一直線上にないと仮定する。

(1)  $\triangle ABC$  が正三角形となる必要十分条件は

$$\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 = \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha$$

であることを示せ。

(2)  $\triangle ABC$  は正三角形のとき、 $\triangle ABC$  の外接円上の点  $P$  を任意にとる。このとき、

$$AP^2 + BP^2 + CP^2$$

および

$$AP^4 + BP^4 + CP^4$$

を外接円の半径  $R$  を用いて表せ。ただし、2 点  $X, Y$  に対し、 $XY$  とは線分  $XY$  の長さを表す。



(1)  $60^\circ$  回転を表す複素数を  $c$  とすると

$$c = \cos 60^\circ + i \sin 60^\circ = \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad c^{-1} = \cos(-60^\circ) + i \sin(-60^\circ) = \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i$$

である。

$\triangle ABC$  が正三角形となるとき、

「 $\overline{AB}$  を  $60^\circ$  回転したものが  $\overline{AC}$ 」または「 $\overline{AB}$  を  $-60^\circ$  回転したものが  $\overline{AC}$ 」

であるから、

$$\gamma - \alpha = c(\beta - \alpha) \quad \text{または} \quad \gamma - \alpha = c^{-1}(\beta - \alpha)$$

$$\{\gamma - \alpha - c(\beta - \alpha)\} \{\gamma - \alpha - c^{-1}(\beta - \alpha)\} = 0$$

$$(\gamma - \alpha)^2 + (\beta - \alpha)^2 - (c + c^{-1})(\gamma - \beta)(\beta - \alpha) = 0$$

ここで、 $c + c^{-1} = \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right) + \left(\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i\right) = 1$  であるから

$$\gamma^2 - 2\alpha\gamma + \alpha^2 + \beta^2 - 2\alpha\beta + \beta^2 - (\beta\gamma - \alpha\gamma - \alpha\beta + \alpha^2) = 0 \Leftrightarrow \alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 = \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha$$

(2)  $\triangle ABC$  の外接円の中心を  $O$ ,  $P(p)$  とすると

$$\begin{aligned} & AP^2 + BP^2 + CP^2 \\ &= |p - \alpha|^2 + |p - \beta|^2 + |p - \gamma|^2 \\ &= (p - \alpha)(\bar{p} - \bar{\alpha}) + (p - \beta)(\bar{p} - \bar{\beta}) + (p - \gamma)(\bar{p} - \bar{\gamma}) \\ &= 3|p|^2 + |\alpha|^2 + |\beta|^2 + |\gamma|^2 - p(\bar{\alpha} + \bar{\beta} + \bar{\gamma}) - \bar{p}(\alpha + \beta + \gamma) \quad \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

ここで,  $\triangle ABC$  の重心は  $O$  であることより  $\alpha + \beta + \gamma = 0$ , および  $|\alpha| = |\beta| = |\gamma| = |p| = R$  より

$$AP^2 + BP^2 + CP^2 = 3R^2 + R^2 + R^2 + R^2 - p \cdot \bar{0} - \bar{p} \cdot 0 = 6R^2$$

$$\begin{aligned} \text{次に, } |p - \alpha|^4 &= \{(p - \alpha)(\bar{p} - \bar{\alpha})\} \\ &= (2R^2 - p\bar{\alpha} - \bar{p}\alpha)^2 \\ &= 4R^4 - 4R^2(p\bar{\alpha} + \bar{p}\alpha) + p^2\bar{\alpha}^2 + 2|p|^2|\alpha|^2 + \bar{p}^2\alpha^2 \end{aligned}$$

であるので,

$$\begin{aligned} AP^4 + BP^4 + CP^4 &= |p - \alpha|^4 + |p - \beta|^4 + |p - \gamma|^4 \\ &= 3 \times (4R^4 + 2R^4) - 4R^2 \{p(\bar{\alpha} + \bar{\beta} + \bar{\gamma}) + \bar{p}(\alpha + \beta + \gamma)\} \\ &\quad + p^2(\bar{\alpha}^2 + \bar{\beta}^2 + \bar{\gamma}^2) + \bar{p}^2(\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2) \\ &= 18R^4 + p^2(\bar{\alpha}^2 + \bar{\beta}^2 + \bar{\gamma}^2) + \bar{p}^2(\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2) \end{aligned}$$

となる。ここで,

$$\begin{aligned} \alpha + \beta + \gamma = 0 \text{ より } \alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 &= (\alpha + \beta + \gamma)^2 - 2(\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha) \\ &= 0^2 - 2(\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2) \end{aligned}$$

であるから

$$3(\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2) = 0 \text{ より } \alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 = 0$$

よって

$$AP^4 + BP^4 + CP^4 = 18R^4$$



座標空間に 5 点

$$O(0, 0, 0), A(3, 0, 0), B(0, 3, 0), C(0, 0, 4), P(0, 0, -2)$$

をとる。さらに  $0 < a < 3$ ,  $0 < b < 3$  に対して 2 点  $Q(a, 0, 0)$  と  $R(0, b, 0)$  を考える。

- (1) 点  $P, Q, R$  を通る平面を  $H$  とする。平面  $H$  と線分  $AC$  の交点  $T$  の座標, および平面  $H$  と線分  $BC$  の交点  $S$  の座標を求めよ。
- (2) 点  $Q, R, S, T$  が同一円周上にあるための必要十分条件を  $a, b$  を用いて表し, それを満たす点  $(a, b)$  の範囲を座標平面上に図示せよ。



- (1)  $P, Q, A, C$  は  $xz$  平面上の点であるから,  $y$  座標はそれぞれ 0 であり,  $xz$  平面上で直線  $AC, PQ$  の交点が  $T$  である。

$$\text{直線 } AC : \frac{x}{3} + \frac{z}{4} = 1, \quad \text{直線 } PQ : \frac{x}{a} + \frac{z}{-2} = 1$$

$$\text{これらを連立させて解くと, } x = \frac{9a}{2a+3}, \quad z = \frac{12-4a}{2a+3}$$

$$\text{よって } T \left( \frac{9a}{2a+3}, 0, \frac{12-4a}{2a+3} \right)$$

また,  $P, R, B, C$  は  $yz$  平面上の点であるから,  $x$  座標はそれぞれ 0 であり,  $yz$  平面上で直線  $BC, PR$  の交点が  $S$  である。

$$\text{直線 } BC : \frac{y}{3} + \frac{z}{4} = 1, \quad \text{直線 } PR : \frac{y}{b} + \frac{z}{-2} = 1$$

$$\text{これらを連立させて解くと, } y = \frac{9b}{2a+3}, \quad z = \frac{12-4b}{2a+3}$$

$$\text{よって } S \left( 0, \frac{9b}{2a+3}, \frac{12-4b}{2a+3} \right)$$

- (2)  $0 < a < 3$ ,  $0 < b < 3$  のもとで,  $Q, R, S, T$  が同一円周上にあるための必要十分条件は,

$$\text{法ベキの定理とその逆により } PQ \cdot PT = PR \cdot PS \quad \cdots \textcircled{1}$$

ここで,  $P, Q, T$  の  $x$  座標について

$$PQ:PT = a:\frac{9a}{2a+3} \text{ より } PT = \frac{9}{2a+3}PQ \text{ であるから, } PT \cdot PQ = \frac{9}{2a+3}PQ^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

P, Q, S の  $x$  座標についても同様に

$$PR:PS = b:\frac{9b}{2b+3} \text{ より } PS = \frac{9}{2b+3}PR \text{ であるから, } PS \cdot PR = \frac{9}{2b+3}PR^2 \quad \dots \textcircled{3}$$

①②③より

$$\frac{9}{2a+3}PQ^2 = \frac{9}{2b+3}PR^2$$

したがって

$$\begin{aligned} (2b+3)(a^2+4) &= (2a+3)(b^2+4) \Leftrightarrow 2a^2b - 2ab^2 + 8b - 8a + 3a^2 - 3b^2 = 0 \\ &\Leftrightarrow (a-b)(2ab+3a+3b-8) = 0 \end{aligned}$$

より

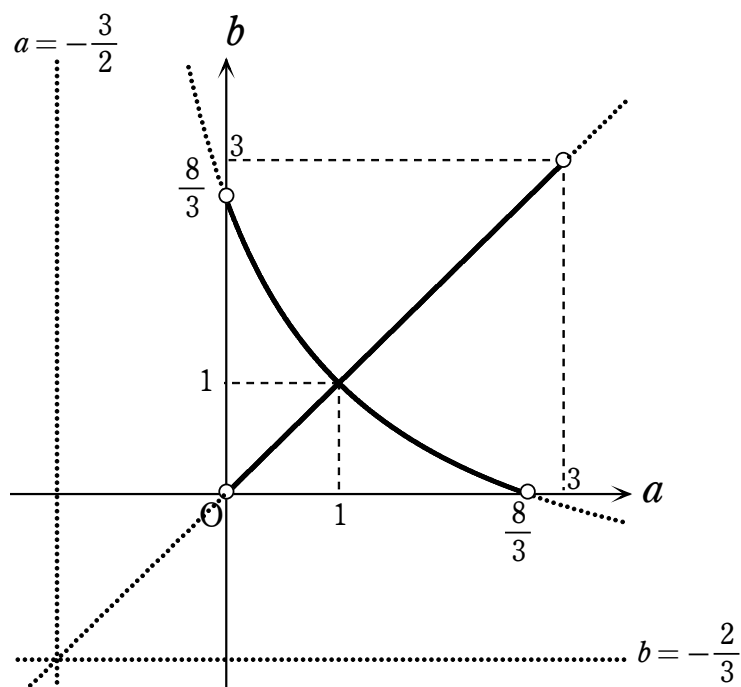
$$a-b=0 \text{ または } 2ab+3a+3b-8=0 \quad \dots (*)$$

$$2ab+3a+3b-8=0 \Leftrightarrow (2a+3)b = -3a+8$$

$$\Leftrightarrow b = \frac{-3a+8}{2a+3} = -\frac{3}{2} + \frac{\frac{25}{4}}{a+\frac{3}{2}} \quad \dots \textcircled{4}$$

であるから, ④は  $a = -\frac{3}{2}, b = -\frac{3}{2}$  を漸近線とする双曲線 (の一部) である。

よって (\*) を図示すると次の図の実線部分になる。ただし, ○は含まない。





$n$  を正の奇数とする。曲線  $y = \sin x$  ( $(n-1)\pi \leq x \leq n\pi$ ) と  $x$  軸で囲まれた部分を  $D_n$  とする。

直線  $x + y = 0$  を  $\ell$  とおき、 $\ell$  の周りに  $D_n$  を 1 回転させてできる回転体を  $V_n$  とする。

- (1)  $(n-1)\pi \leq x \leq n\pi$  に対して、点  $(x, \sin x)$  を  $P$  とおく。また  $P$  から  $\ell$  に下ろした垂線と  $x$  軸の交点を  $Q$  とする。線分  $PQ$  を  $\ell$  の周りに 1 回転させてできる図形の面積を  $x$  の式で表せ。
- (2) (1) の結果を用いて、回転体  $V_n$  の体積を  $n$  の式で表せ。



- (1)  $n$  は正の奇数であるから、 $D_n$  は  $x$  の上側にあり、 $P$  から  $\ell$  に下ろした垂線の足を  $H$  とすると、 $P, Q, H$  はこの順に並ぶ。

求める面積は  $\pi(PH^2 - QH^2)$  である。

$P(t, \sin t)$  ( $(n-1)\pi \leq t \leq n\pi$ ) とおく。

直線  $PH$  の方程式は  $\ell: x + y = 0$  に垂直であるから、

$$y - \sin t = 1(x - t) \Leftrightarrow y = x + \sin t - t$$

これより

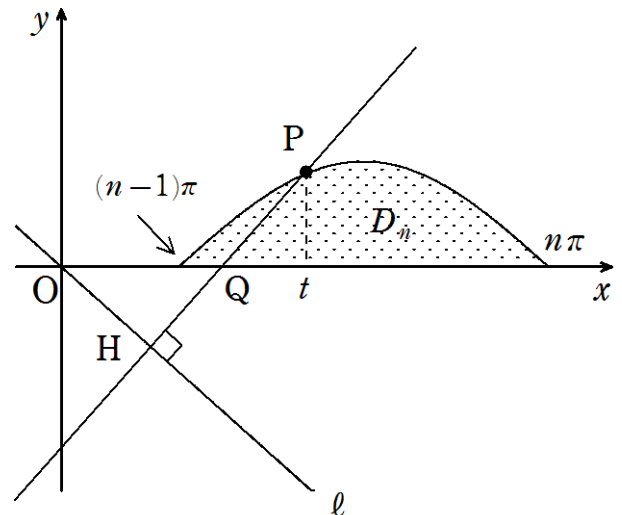
$$Q(t - \sin t, 0), \quad H\left(\frac{t - \sin t}{2}, \frac{\sin t - t}{2}\right)$$

である。

よって

$$\begin{aligned} \pi(PH^2 - QH^2) &= \pi \left\{ \left( \frac{t + \sin t}{2} \right)^2 + \left( \frac{\sin t + t}{2} \right)^2 - \left( \frac{t - \sin t}{2} \right)^2 - \left( \frac{\sin t - t}{2} \right)^2 \right\} \\ &= \pi \cdot 2t \sin t \end{aligned}$$

よって、求める図形の面積を  $x$  を用いて表すと  $2\pi x \sin x$



(2)  $\ell$  を  $X$  軸 (  $O$  を原点,  $x$  座標が増える向きを正),  $H$  の  $X$  座標  $OH$  を  $h(t)$  とし,

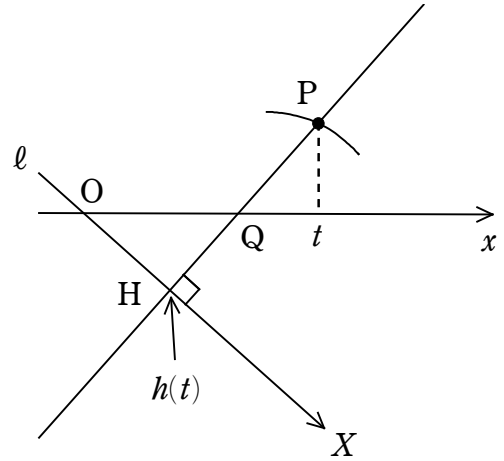
$S(t) = 2\pi t \sin t$  とおく。

このとき, 求める体積は  $\int_{h((n-1)\pi)}^{h(n\pi)} S(t) dX$  である。

変数を  $t$  に置換すると

$$X = h(t) = OH = \frac{1}{\sqrt{2}}(t - \sin t) \text{ より } dX = h'(t)dt$$

$$X : h((n-1)\pi) \rightarrow h(n\pi) \text{ のとき } t : (n-1)\pi \rightarrow n\pi$$



であるから

$$\begin{aligned} \int_{h((n-1)\pi)}^{h(n\pi)} S(t) dX &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1 - \cos t) dt = \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} S(t) h'(t) dt = \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} 2\pi t \sin t \cdot \frac{1}{\sqrt{2}}(1 - \cos t) dt \\ &= \sqrt{2}\pi \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} t \sin t dt - \frac{\pi}{\sqrt{2}} \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} t \sin 2t dt \end{aligned}$$

ここで, 右辺第1項の積分について

$$\begin{aligned} \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} t \sin t dt &= \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} t(-\cos t)' dt = [-t \cos t]_{(n-1)\pi}^{n\pi} + \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} \cos t dt = [-t \cos t + \sin t]_{(n-1)\pi}^{n\pi} \\ &= -n\pi \cos n\pi + (n-1)\pi \cos(n-1)\pi \\ &= n\pi + (n-1)\pi \quad (\because n \text{ は奇数}) \\ &= (2n-1)\pi \end{aligned}$$

右辺第2項の積分について

$$\begin{aligned} \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} t \sin 2t dt &= \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} t \left( -\frac{1}{2} \cos 2t \right)' dt = \left[ -\frac{1}{2} t \cos t \right]_{(n-1)\pi}^{n\pi} + \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} \frac{1}{2} \cos 2t dt \\ &= \left[ -\frac{1}{2} t \cos t + \frac{1}{4} \sin 2t \right]_{(n-1)\pi}^{n\pi} \\ &= -\frac{1}{2}(n\pi) + \frac{1}{2}(n-1)\pi \\ &= -\frac{\pi}{2} \end{aligned}$$

したがって, 求める体積  $V_n$  は

$$V_n = \sqrt{2}\pi \cdot (2n-1)\pi - \frac{\pi}{\sqrt{2}} \cdot \left( -\frac{\pi}{2} \right) = \sqrt{2} \left( 2n - \frac{3}{4} \right) \pi^2$$





$k$  を正の整数とし、 $a_k = \int_0^1 x^{k-1} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx$  とおく。

- (1)  $a_{k+2}$  を  $a_k$  と  $k$  を用いて表せ。
- (2)  $k$  を限りなく大きくするとき、数列  $\{ka_k\}$  の極限值  $A$  を求めよ。
- (3) (2)の極限值  $A$  に対し、 $k$  を限りなく大きくするとき、数列

$$\{k^m a_k - k^n A\}$$

が 0 でない値に収束する整数  $m, n$  ( $m > n \geq 1$ ) を求めよ。

またそのときの極限值  $B$  を求めよ。

- (4) (2)と(3)の極限值  $A, B$  に対し、 $k$  を限りなく大きくするとき、数列

$$\{k^p a_k - k^q A - k^r B\}$$

が 0 ではない値に収束する整数  $p, q, r$  ( $p > q > r \geq 1$ ) を求めよ。

またそのときの極限值を求めよ。



- (1)  $a_k = \int_0^1 x^{k-1} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx$  より

$$a_{k+2} = \int_0^1 x^{k+1} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx$$

$$= \int_0^1 x^{k+1} \left\{ -\frac{2}{\pi} \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) \right\}' dx$$

$$= \left[ x^{k+1} \left\{ -\frac{2}{\pi} \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) \right\} \right]_0^1 + (k+1) \cdot \frac{2}{\pi} \int_0^1 x^k \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx$$

$$= (k+1) \cdot \frac{2}{\pi} \int_0^1 x^k \left\{ \frac{2}{\pi} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) \right\}' dx$$

$$= (k+1) \cdot \frac{2}{\pi} \left\{ \left[ x^k \cdot \frac{2}{\pi} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) \right]_0^1 - \frac{2}{\pi} \int_0^1 kx^{k-1} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx \right\}$$

$$\begin{aligned}
&= (k+1) \cdot \frac{2}{\pi} \left\{ \frac{2}{\pi} - \frac{2}{\pi} k \int_0^1 x^{k-1} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx \right\} \\
&= (k+1) \cdot \frac{2}{\pi} \left( \frac{2}{\pi} - \frac{2}{\pi} k a_k \right) \\
&= \frac{4}{\pi^2} (k+1) (1 - k a_k)
\end{aligned}$$

よって

$$a_{k+2} = \frac{4}{\pi^2} (k+1) (1 - k a_k) \quad \cdots \textcircled{1}$$

(2)  $0 \leq x \leq 1$  のとき  $0 \leq \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) \leq 1$ ,  $x^{k-1} \geq 0$  であるから

$$0 \leq a_k = \int_0^1 x^{k-1} \sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx \leq \int_0^1 x^{k-1} dx$$

よって

$$0 \leq a_k \leq \frac{1}{k}$$

はさみうちの原理より

$$\lim_{k \rightarrow \infty} a_k = 0$$

ここで,  $a_{k+2} = \frac{4}{\pi^2} (k+1) (1 - k a_k)$  より

$$1 - k a_k = \frac{\pi^2}{4(k+1)} a_{k+2} \quad \Leftrightarrow \quad k a_k = 1 - \frac{\pi^2}{4(k+1)} a_{k+2}$$

であるから

$$A = \lim_{k \rightarrow \infty} k a_k = \lim_{k \rightarrow \infty} \left\{ 1 - \frac{\pi^2}{4(k+1)} a_{k+2} \right\} = 1$$

(3)  $b_k = ka_k - A = ka_k - 1$  とおくと, (2)の結果より

$$\lim_{k \rightarrow \infty} b_k = 0 \quad \dots \textcircled{2}$$

であり,  $a_k = \frac{b_k + 1}{k}$  と①より

$$\frac{b_{k+2} + 1}{k+2} = \frac{4}{\pi^2} (k+1)(-b_k) \Leftrightarrow b_k = -\frac{\pi^2}{4} \cdot \frac{1}{(k+1)(k+2)} (b_{k+2} + 1) \quad \dots \textcircled{3}$$

である。よって

$$k^2 b_k = -\frac{\pi^2}{4} \cdot \frac{k^2}{(k+1)(k+2)} (b_{k+2} + 1) = -\frac{\pi^2}{4} \cdot \frac{1}{\left(1 + \frac{1}{k}\right)\left(1 + \frac{2}{k}\right)} (b_{k+2} + 1)$$

$$\textcircled{2} \text{より } \lim_{k \rightarrow \infty} k^2 b_k = -\frac{\pi^2}{4} \quad \dots \textcircled{4}$$

ここで,  $G(m, n) = k^m a_k - k^n$  とおくと

$$G(m, n) = k^m \cdot \frac{b_k + 1}{k} - k^n = k^2 b_k \cdot k^{m-3} + k^{m-1} - k^n$$

である。

$m > n \geq 1$  より  $m \geq 2$  であり,  $m-1 \geq n$  である。

④に注意し,  $k^{m-3}, k^{m-1}, k^n$  の次数によって場合分けをする。

(i)  $m-1 > n$  のとき

$$\textcircled{2} \text{より } \lim_{k \rightarrow \infty} G(m, n) = \lim_{k \rightarrow \infty} (k^2 b_k \cdot k^{m-3} + k^{m-1} - k^n) = \lim_{k \rightarrow \infty} k^{m-1} (b_k + 1 - k^{n-(m-1)}) = \infty$$

(ii)  $m-1 = n$  のとき

$$\textcircled{4} \text{より } \lim_{k \rightarrow \infty} G(m, n) = \lim_{k \rightarrow \infty} (k^2 b_k \cdot k^{m-3} + k^{m-1} - k^n) = \lim_{k \rightarrow \infty} k^2 b_k \cdot k^{m-3} = \begin{cases} 0 & (m=2) \\ -\frac{\pi^2}{4} & (m=3) \\ \infty & (m \geq 4) \end{cases}$$

(i)(ii)より,  $G(m, n)$  が0でない値に収束するのは

$$(m, n) = (3, 2)$$

のときであり

$$B = \lim_{k \rightarrow \infty} G(3, 2) = -\frac{\pi^2}{4}$$

である。

(4)  $c_k = G(3, 2) - B = k^2 b_k + \frac{\pi^2}{4}$  とおくと, (3)の結果より

$$\lim_{k \rightarrow \infty} c_k = 0 \quad \dots \textcircled{5}$$

$$b_k = \frac{c_k - \frac{\pi^2}{4}}{k^2} \text{ と } \textcircled{3} \text{ より}$$

$$\frac{1}{k^2} \left( c_k - \frac{\pi^2}{4} \right) = -\frac{\pi^2}{4} \cdot \frac{1}{(k+1)(k+2)} \left\{ \frac{1}{(k+2)^2} \left( c_{k+2} - \frac{\pi^2}{4} \right) + 1 \right\}$$

よって

$$c_k = \frac{\pi^2}{4} \left\{ \frac{3k+2}{(k+1)(k+2)} - \frac{k^2}{(k+1)(k+2)^3} \left( c_{k+2} - \frac{\pi^2}{4} \right) \right\}$$

となる。⑤より

$$\lim_{k \rightarrow \infty} k c_k = \lim_{k \rightarrow \infty} \frac{\pi^2}{4} \left\{ \frac{k(3k+2)}{(k+1)(k+2)} - \frac{k^3}{(k+1)(k+2)^3} \left( c_{k+2} - \frac{\pi^2}{4} \right) \right\}$$

$$= \lim_{k \rightarrow \infty} \frac{\pi^2}{4} \left\{ \frac{3 + \frac{2}{k}}{\left(1 + \frac{1}{k}\right) \left(1 + \frac{2}{k}\right)} - \frac{1}{(k+1) \left(1 + \frac{2}{k}\right)^3} \left( c_{k+2} - \frac{\pi^2}{4} \right) \right\}$$

$$= \frac{3}{4} \pi^2 \quad \dots \textcircled{6}$$

である。

$$H(p, q, r) = k^p a_k - k^q A - k^r B = k^p a_k - k^q + \frac{\pi^2}{4} k^r$$

とおくと

$$a_k = \frac{b_k + 1}{k} = \frac{\frac{1}{k^2} \left( c_k - \frac{\pi^2}{4} \right) + 1}{k} = c_k k^{-3} - \frac{\pi^2}{4} k^{-3} + k^{-1}$$

より

$$H(p, q, r) = k c_k \cdot k^{p-4} - \frac{\pi^2}{4} k^{p-3} + k^{p-1} - k^q + \frac{\pi^2}{4} k^r$$

である。

また,  $p > q > r \geq 1$  より  $p \geq 3$  であり,  $p-1 \geq q$ ,  $p-1 > r$  である。

(i)  $p-1 > q$  のとき

$$\textcircled{6} \text{より } \lim_{k \rightarrow \infty} H(p, q, r) = \lim_{k \rightarrow \infty} k^{p-1} \left( kc_k \cdot k^{-3} - \frac{\pi^2}{4} k^{-2} + 1 - k^{q-(p-1)} + \frac{\pi^2}{4} k^{r-(p-1)} \right) = \infty$$

(ii)  $p-1 = q$  のとき

$$H(p, q, r) = kc_k \cdot k^{p-4} - \frac{\pi^2}{4} k^{p-3} + \frac{\pi^2}{4} k^r$$

である。

(ii-1)  $p-3 < r$  のとき

$$\lim_{k \rightarrow \infty} H(p, q, r) = \lim_{k \rightarrow \infty} k^r \left( kc^k \cdot k^{(p-3)-r-1} - \frac{\pi^2}{4} k^{(p-3)-r} + \frac{\pi^2}{4} \right) = \infty$$

(ii-2)  $p-3 > r$  のとき

$$\lim_{k \rightarrow \infty} H(p, q, r) = \lim_{k \rightarrow \infty} k^{p-3} \left( kc^k \cdot k^{-1} - \frac{\pi^2}{4} + \frac{\pi^2}{4} k^{r-(p-3)} \right) = -\infty$$

(iii-3)  $p-3 = r$  のとき

$r \geq 1$  より  $p \geq 4$  であるから

$$\lim_{k \rightarrow \infty} H(p, q, r) = \lim_{k \rightarrow \infty} k^{p-3} (kc^k \cdot k^{p-4}) = \begin{cases} \frac{3}{4} \pi^2 & (p=4) \\ \infty & (p \geq 5) \end{cases}$$

である。

以上より、 $H(p, q, r)$  が 0 でない値に収束するのは

$$(p, q, r) = (4, 3, 1)$$

のときであり、

$$\lim_{k \rightarrow \infty} H(4, 3, 1) = \frac{3}{4} \pi^2$$

である。